

【報告】

第六垂水丸遭難事故を語り継ぐ会

長年、垂水市内の有志や垂水史談会で実施してきた第六垂水丸遭難事故を語り継ぐ会を二月二十二日に行いました。会を実施する午後からは雨模様のおいにくの天候でしたが、会場の垂水図書館の駐車場が満杯になり、いすやスリッパが足らなくなり、立ち見の方も出るくらいの大盛況！七十名を超える多くのおみなさんに参加していただき、嬉しい悲鳴でした。今回の大盛況は、会員のみなさんの呼びかけだけでなく、前日に南日本間紙上で大きく紹介していただいたことが大きな要因だったと思います。「どのようにして広報していくか」は、とても大切なことだと再認識させられました。今後も様々な手立てをして、呼びかけていきたいですね。

今回の「語り継ぐ会」は、大きな目玉が二つありました。

一つ目は、第六垂水丸遭難事故を取り上げた紙芝居「六十五年目の証言」の初披露です。この



紙芝居は、「一人でも多くの人に第六垂水丸遭難事故の事実を知ってもらおう」という思いで作ってほしい。という多くの方々の思いを受けて、垂水史談会が、桜島在住の足立昇(あだちのぼる)さんが作られた紙芝居をもとに、作ってもらった作品です。足立さんは、昔話や民話を紙芝居にして、ユーチューブや道の駅「なぐらじま」などで上映する活動をされている方です。今回の初披露は、足立さんご自身の朗読で行うことができました。情感をこめて、いいいに語られる足立さんの声は、会場の後方にもよく届き、心に染み入る素晴らしいものでした。「第六垂水丸遭難事故とは、どんな事件だったのか？ それに関わった人たちは、どんな思いだったのか？」というのを、参加者全員で共通認識を持つことができました。今後は、増刷して、小・中学校だけでなく、高校にも配布して、「第六垂水丸遭難事故の真実」を多くの人たちに広めていく教材としたいです。上映後、足立さんは、「読みながら、感情移入して涙が出そうになってしまいました。」とおっしゃっていました。熱演でしたもんね。

二つ目の目玉は、第六垂水丸に乗船して運よく生還するこゝろで来た鹿屋市在住の田尻正彦さん(百二歳！)の体験談を聞かせていただいたことです。田尻さんは、去年もご来場いただき、その体験を語っていただきましたが、「ぜひお聞きしたかった！」「もう一度聞きたい」という声が多く、今年もお越しいただきました。十九歳の時、この大惨事を経験された田尻さん。船が転覆して冬の海に投げ出され、岸まで必死で泳ぎ助かったこと。海岸



は、絶え間なくサイレンが鳴り響き、騒然としていたこと。あちこちで焚火がたかれ、救助された人たちがあちこちで人工呼吸を施されていたこと。むしろを掛けられた遺体が無数に並べられていたこと。当時の様子が生々しく語られ、何度聞いても臨場感があり、鳥肌が立ちました。やはり、体験者の話を聞くことは重要だと実感しました。田尻さんには、まだまだお元気で過ごされ、こちらからも多くの人たちに貴重な体験を伝えたいだけだと思います。「語る会」が終わった後、何名かの方に声をかけられました。その中で印象深かったお話が、二つありました。

生徒動員で出征した父の写真に、「垂水丸」と記された軍服姿の写真があり、前から気になっておりました。昨年の講演会は都合がつかず、来るできませんでしたので、再度企画していただき、たいへん感謝しております。ありがとうございます。

この方は、「垂水丸」と記された謎を解こうと、海軍の資料館を調べたそうですが、垂水丸沈没の記録は、見つからなかったそうです。「第六垂水丸は軍に徴用されて撃沈されたのではなく、民間船が事故で沈没したということ」で記録として残っていないのか、区別されて納得いかないですね。「と語り合いました。

もう一人の方は、「どうしてもこの話を誰かに聞いてほしくて今日来ました。」と、話してくださいました。

夫の母も兵隊さんの面会のため、乗船していました。夫の母は、三日目に機関室で見つけ出されたそうです。でも、油で顔も体も真っ黒になってしまっていて、誰だか見分けがつかなかったそうです。「右手の第一関節が曲がっている人です。」と言って、それをあてに探してもらい、それが決め手で、ようやく見つけることができました。夫の母の話は、私の中でずっとひっかかっていたことで、ようやく話すことができました。

みなさん、いろんな思いを持って参加してくださいているんだなあと感じました。(古場 昌彦)

まち歩き講座

(ブラセスミ)第9回

二月二十二日、まち歩き講座(通称ブラセスミ)第9回は新城支所を出発し、陸軍所の水、旧新城小学校校門で過去の情景を目に浮かべ、田中良八の墓には森と同化してしまった姿に驚き、内山の田の神さあでは、昔の田の神講をあれこれ想像を巡らし、内山観音の神聖さに心が洗われ、それから新城支所に戻りました。参加者の皆さんは28名で、快晴で暖かく、正に「まち歩き日和」でした。道中、寒椿が散っていたり、ひよこつとツクシが顔を出していたりと春の訪れを感じる穏やかな2時間を過ごしました。

あなたの知らない垂水が見つかる。
瀬角さんとブラブラ歩いて学ぼうブラセスミ

外国の実習生たちは、今回のまち歩きで内山観音が一番印象に残ったようです。「どうして今の時期は池に水がないの?」「観音様の手に持っているものは何かな?」など実習生同士が興味あり、色々話し合っていました。また神秘的な風景がとても気に入った様子でした。調べてみると、この内山観音は、もと鹿屋の笠野薬師寺の末寺である内山薬師寺にあったものだそうです。内山薬師寺は、鎌倉時代、肝付氏の支族・鹿屋氏がこの地方を支配していたころ創建していた寺で花岡や浜田、高須等からも多くの参拝者があったそうです。明治初期の廃仏毀釈の際、内山薬師寺も廃寺となったそうですが、観音様だけは土地の信仰深い人々によって守り抜かれたそうです。今、目の前で観音様が拝めることがとてもありがたいことだと思いました。

また、今回は皆で集合写真を撮った後に新城公民館の方々から手作り「げたんは」、小みかん、お茶をいただきました。出来たての「げたんは」で体の疲れが一気に取れました。とても美味しかったです! どうもありがとうございました! (高櫻 健一)



〓次回のまち歩き講座〓

今年度のラストです

第十回 三月二十二日(日)

午前9時 高峠駐車場集合 とんがり屋根のあずま屋付近

※今回は、高峠登山は行いません。(ちよつと残念。) 高低差があまりないところをブラブラします。

午前十一時か十一時半ごろ終了予定。

★天候によっては、座学になります。

★史談会会員は、いつでも参加できます。(会員特典です。)

〓研究ノート〓 蝶の話

第7回 春を告げる蝶

月ちようちよう ちようちよう葉の葉にとまれ月

春を告げる蝶で直ぐに思い浮かべるのがモンシロチョウですよね。鹿児島では一年の内モンシロチョウを観ないのは一月だけだと言われています。日本には昔からいますが実はヨーロッパが原産の外来種なんです。

それともう一種類紹介します。『春の妖精』と呼ばれているツマキチョウです。三月中旬頃から五月にかけて年一回だけ春に観られ、モンシロチョウよりひと回り小さな可愛い蝶です。前翅の先端がその名のとおりに黄色い(オスのみ)のが特徴です。また後翅の裏は枯草に擬態する緑色の模様があります。 (市来 恒男)



(写真 上がオス 下がメス)

〓お知らせ〓

◇三月二十一日(土)

★チラシ参照

戦争遺跡調査成果発表会

市民館大ホール 13時~16時

◇四月二十六日(日)

垂水史談会総会&結成100年記念講演

市民館2階会議室 14時~16時半

※記念講演は、東川隆太郎さんをお願いしております。

★過去の「垂水史談会報は、インターネットで『大隅史談会』ホームページを検索して、「各地域での活動」をクリックすると、平成30年の第30号から閲覧できます。

〓垂城三十六歌撰 その8〓

田家鹿 藤原清方 (翻刻・瀬角龍平)

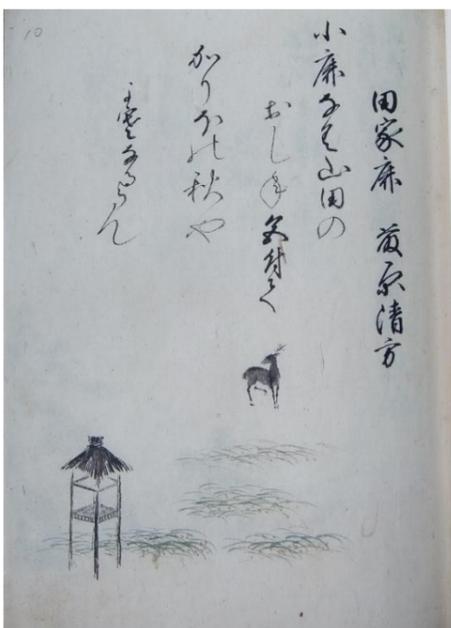
小鹿なく山田の

おしね色付て

かりほの秋や

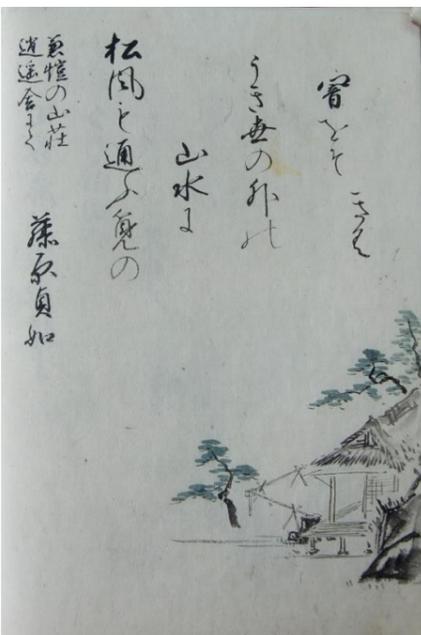
よ寒なるらん

*おしね・晩稻。オソイネの略。



響をそきく
うき世の外
山水に
松風も通ふ筈の

兼愷の山莊
逍遙舎にて
藤原貞如



垂水では、はやくからすぐれた歌が数多くよまれてきました。1835年に編纂された「浪の藻屑」には、垂水領主から町人まで165人の名と2000首の歌がしるされています。その中から、特に秀でた36人を選んで「垂城三十六歌撰」と称しました。